



Top Message

**グローバル屈指のペプチド創薬技術と、
放射性医薬品の日本におけるプラットフォームという
ユニークな組み合わせを最大限に活かし、
新たなステージへ進みます。**

代表取締役社長 リード・パトリック



Q 富士フィルム富山化学株式会社の放射性医薬品事業の取得についてご説明願います。

放射性医薬品の研究開発から製造、販売マーケティングまで一気通貫で最適化されたJapanプラットフォームの構築を目指します。

本年9月2日付けで、富士フィルム株式会社から富士フィルム富山化学株式会社の放射性医薬品事業(以下「対象事業」)を取得することに合意いたしました。当社がかねてより放射性医薬品領域におけるペプチド-薬物複合体(以下「PDC」)の活用を重要戦略の一つとして位置付けてきました。当社が有する創薬技術と対象事業が有する放射性医薬品の研究開発から製造販売までの実績・ノウハウを組み合わせることで、放射性医薬品の研究開発から製造、販売マーケティングまで一気通貫で最適化された独自の国内プラットフォームを構築し、放射性医薬品グローバルネットワークの中心的ハブとして次世代放射性医薬品の開発・普及を最大化していきたいと考えています。

放射性医薬品事業では、海外企業が有する放射性医薬品を日本に導入するのみならず、自社創製品として開発を進めるPDC医

薬品の海外企業への導出も加速する等、ペプチド創薬事業とのシナジーを多方面から図っていきます。

「Drug Discovery Powerhouse」としてペプチド創薬の3つの柱(創薬共同研究開発・PDPS技術ライセンス・戦略的提携/自社プログラム)を推進していくビジネスモデルに変更はなく、今回新たに、放射性医薬品事業が第4の柱として加わることで、臨床開発・商業化段階における事業のスピード感をより一層加速していくことが狙いです。

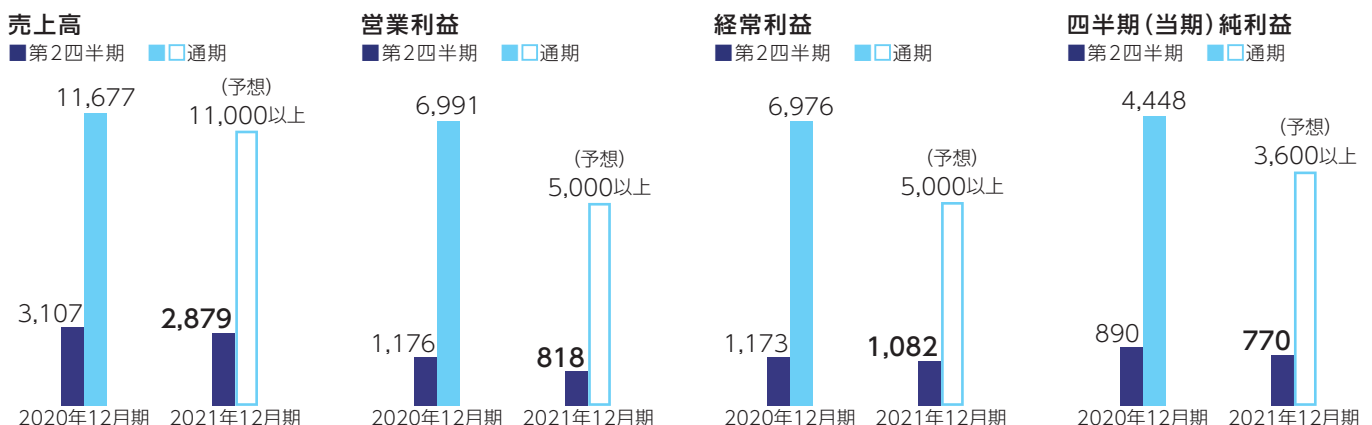
Q 2021年12月期上半期の振り返りと事業の進捗についてご説明願います。

依然として新型コロナウイルス感染症の収束時期が見通せない中、通期業績予想に対して想定通りの進捗と考えています。

2021年12月期上半期は、3つの事業セグメントごとに振り返りますと「創薬研究開発」ではヒット・クライテリアとリード・クライテリアのマイルストーン達成が2件、「PDPSの非独占的技術ライセンス」では1件の新規契約を締結いたしました。当社独自の創薬開発

2021年12月期第2四半期 業績概要

(単位：百万円)



プラットフォームシステムであるPDPSの技術ライセンスについては、今回の新規契約締結で10社目となります。また、「戦略的提携による自社パイプライン拡充」では3件のプログラムの進捗がみられ、うち2件はマイルストーンを達成いたしました。

以上の結果、2021年12月期上半期の売上高は約29億円、営業利益は約8億円となりました。依然として新型コロナウイルス感染症の収束時期が見通せない中、厳しい事業環境が続いています。そうした中でも、第3四半期に入ってから複数の大型案件について契約締結を完了し、通期の業績目標に対しては概ね順調に推移しているものと考えています。

Q サステナビリティへの取り組みはいかがでしょうか？

「サステナビリティ・ガバナンス委員会」を設置しました。また、2026年までに「カーボンニュートラル」の実現を目指します。

今後の成長を実現していく上で、事業自体の成長はもちろんですが、中長期的視点によるサステナビリティへの取り組みも不可欠な要素と考えています。新たな中期目標の中で「[Drug Discovery Powerhouse]としての基盤確立」を掲げ、当社の将来に向けたビジョンを示していますが、その中でもサステナビリティを重要な要素として位置付けています。

2021年12月期上半期の主な進捗として、一つは「サステナビリティ・ガバナンス委員会」の設置です。独立社外取締役を委員長と

する取締役会の諮問機関として設置いたしました。また、サステナビリティ課題への対応を推進し、サステナビリティ戦略を実行・牽引する専門部署としてサステナビリティ推進室を新設しました。

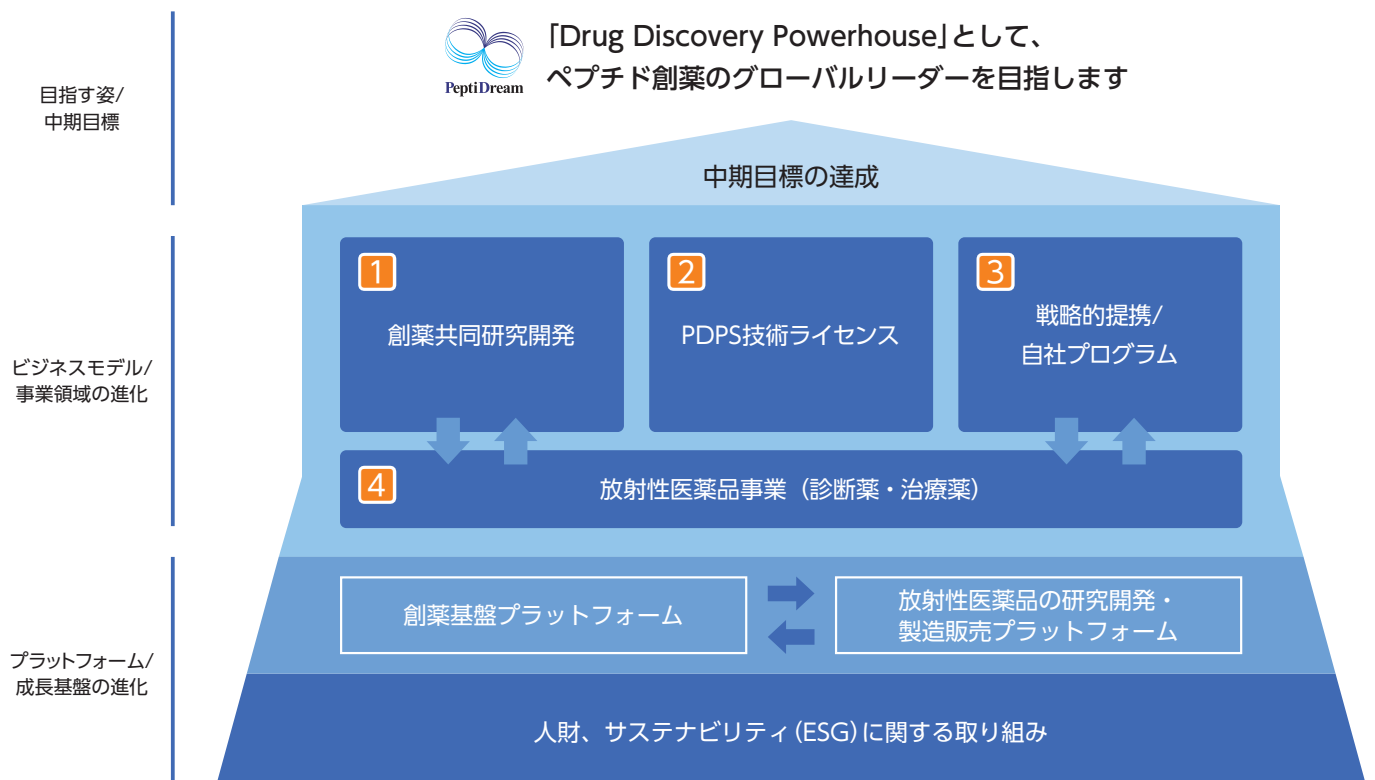
また、環境への取り組みも加速していきます。ESG(環境・社会・ガバナンス)の取り組みの中でも、特に脱炭素の取り組みは世界的に見ても急務であり企業活動にとって不可欠と言えます。当社でも環境負荷低減への取り組みを加速し、2026年までに自社事業活動における「カーボンニュートラル」の実現を目指します。

Q ステークホルダーへのメッセージをお願いします。

5年後、10年後、さらにその先に向けて持続的成長を加速し、企業価値向上の新たなステージを創っていきます。

当社は、2021年7月に設立15周年を迎え、次の5年後に向けた新たな中期目標を策定しました。事業活動とサステナビリティへの取り組みの両輪から、5年後、10年後、さらにその先に向けて持続的成長の基盤をしっかりと構築し、「Drug Discovery Powerhouse」の実現を通じて、ペプチド創薬のグローバルリーダーを目指してまいります。守るべきところは守り、攻めるべきところは攻める。新たな成長ステージを戦略的に創り出し、企業価値向上を実現することでステークホルダーの皆さまからの期待に応えていきたいと思っております。

今後のビジネスモデル・成長戦略の方向性



1 ドイツ・バイエル社との創薬共同研究開発におけるクライテリアを達成

2021年2月、ドイツのバイエル社(以下 バイエル社)との間で進行中の創薬共同研究開発プログラム(ターゲットは未公表)において、2つ目のプログラムがヒットペプチドとして設定されていたクライテリア(共同研究開発先とあらかじめ合意している生物活性及び物性等の基準の総称)を満たし、マイルストーンフィー(金額非開示)を受け取ることになりました。

また2021年4月にも、バイエル社との間で進行中の創薬共同研究開発プログラムにおいて、2つ目のプログラムがリードペプチドとして設定されていたクライテリアを達成したことを発表いたしました。

当社はバイエル社と2017年11月16日に創薬共同研究開発契約、さらに2020年5月27日にその拡大契約を締結しており、両社の共同研究開発が着実に進捗してきた成果だと考えております。

2 小野薬品とのPDPS自動化プラットフォームの運用に関する非独占的ライセンス許諾契約を締結

小野薬品工業株式会社(以下 小野薬品)との間で、PDPSの自動化プラットフォームを用いた運用に関して、小野薬品に対する非独占的ライセンス許諾契約を締結しました。PDPSの技術ライセンスについては、今回の契約で10社目になります。

本契約の締結により、ペプチドリームは技術ライセンス料(契約一時金)を受け取ることになるほか、PDPSを用いることで創製された医薬品候補化合物について設定されたマイルストーンフィー及び上市後の売上高に応じたロイヤルティを受け取る可能性があります。

小野薬品は、PDPSを用いて、特定の疾患との関連性が示唆されている新しい創薬標的に対する高親和性ペプチドを迅速に取得し、その情報を最大限に活用し、革新的な新薬を短期間で、かつ高い成功確率で創製に貢献することを目指すとのことです。今回の契約によって、PDPS技術が小野薬品の創薬研究の加速、革新的新薬の創製に貢献していくことを期待しております。

3 ペプチエイドが新型コロナウイルス感染症治療薬PA-001の非臨床試験を開始

ペプチエイド株式会社(以下 ペプチエイド)は、新型コロナウイルス感染症治療薬の開発候補化合物の特定を完了し、開発候補品PA-001の非臨床試験を開始しました。

ペプチエイドは、新型コロナウイルス感染症治療薬の開発を目的として、2020年11月に富士通株式会社、株式会社みずほフィナンシャルグループの連結子会社であるみずほキャピタル株式会社、株式会社竹中工務店、及びキシダ化学株式会社との間で設立した合併会社です。

2020年春頃に当社の初期探索研究によって見出された特殊環状ペプチドに基づき、その後、国立感染症研究所との共同研究で化合物の評価を進めてまいりましたが、PA-001は従来型のSARS-CoV-2だけでなくアルファ株(イギリス由来)、ベータ株(南アフリカ由来)、ガンマ株(ブラジル由来)等の変異株に対しても同様に高い抗ウイルス活性を有することを確認しております。また、直近での感染拡大が懸念されているデルタ株(インド由来)への抗ウイルス活性についても評価試験が進められております。ペプチエイドは現在、ペプチスター株式会社において非臨床GLP準拠原体及び臨床用GMP準拠原体の製造を進めており、2021年中の臨床入りを予定しております。

4 Sosei Heptares との PAR2アンタゴニスト・ペプチドに関する共同研究におけるマイルストーンを達成

そーせいグループ株式会社の100%子会社である英国Heptares Therapeutics社(以下 両社を総称して「Sosei Heptares」)との間で、炎症性疾患や疼痛において重要な役割を担うGタンパク質共役受容体(GPCR)であるPAR2をターゲットとした新規の特殊環状ペプチドの探索・開発・商業化を目的とする戦略的共同研究を進めてまいりましたが、当該プログラムにおいて重要なマイルストーンを達成しました。

両社は、プロテアーゼ活性化受容体2(PAR2)に対する選択的アンタゴニストとして高い活性を有し、かつ消化器内で高い安定性を有することから経口投与に適した新規ペプチドの創製に成功し、炎症性腸疾患(IBD)等の消化器疾患における炎症・疼痛に対する経口治療薬として非臨床試験を進めてまいります。

両社は引き続き非臨床試験を共同で継続するとともに、様々なパートナーリングやライセンスアウトの可能性を検討してまいります。

Message | 新任社外取締役メッセージ



宇都宮 純子

独立社外取締役
(監査等委員／サステナビリティ・ガバナンス委員会委員長)

生年月日 1971年6月21日
在任年数 ー(新任)
所有する当社株式数 0株

●プロフィール

- 2000年4月 長嶋・大野・常松法律事務所入所
- 2007年10月 株式会社東京証券取引所出向
- 2011年11月 宇都宮総合法律事務所開設
- 2012年6月 株式会社スタートトゥデイ(現株式会社ZOZO) 社外監査役(現任)
- 2013年4月 株式会社ソラスト社外監査役
- 2013年9月 株式会社アドベンチャー社外取締役
- 2018年2月 宇都宮・清水・陽来法律事務所開設パートナー(現任)
- 2018年10月 ラクセル株式会社社外監査役
- 2019年10月 同社取締役(監査等委員)(現任)
- 2020年6月 平和不動産株式会社社外取締役(現任)
- 2021年3月 当社 取締役(監査等委員)(現任)

私はこれまで弁護士として、主に企業法務に携わって参りました。その間に東京証券取引所の上場制度を策定する部署に出向し、制度設計に関与する中でガバナンスの議論や投資家との協議等に携わったことは自分の特徴の一つだと思っています。

就任して半年弱ですが、ペプチドリームは、少数精鋭で意思決定も早く、取締役会での議論も活発に行われており、風通しの良い組織だと感じております。弁護士として企業の契約交渉や問題対応にあたってきた経験やガバナンスに関する知見が私に最も期待されていることだと思いますが、他社の社外役員としても多様な案件の審議に関与して参りましたので、社内とは異なる目線を提供することでも貢献したいと考えております。

ペプチドリームには、事業の将来性や社会的意義に共感して参画させていただきましたが、参画前はベンチャーとしてのイメージが強かったので、サステナビリティ・ESG(環境・社会・ガバナンス)

の意識が予想以上に高いことに驚きました。ESGに関しては、SやGの取組みがEに先行する企業が多い中で、ペプチドリームでは2026年までに自社事業活動におけるカーボンニュートラルを明確に打ち出している点が特に印象的でした。

そのような中で、取締役会の諮問機関として新設される「サステナビリティ・ガバナンス委員会」委員長への就任の打診をいただきました。個人的にも注視していた分野であり、お役に立てればとすぐに受任の意向を表明しましたが、新たな取組みで確立したものはないので、まずは一步を踏み出すことが重要だと思っています。会社法上監査等委員としてモニタリングすべき事項と、サステナビリティ・ESGの課題の審議・モニタリングをリンクすることができれば、より投資家の皆様と近い視点でモニタリング機能を提供できるだけでなく、会社の持続的な成長にも寄与できると思っていますので、中長期的な目線で取り組んで参ります。

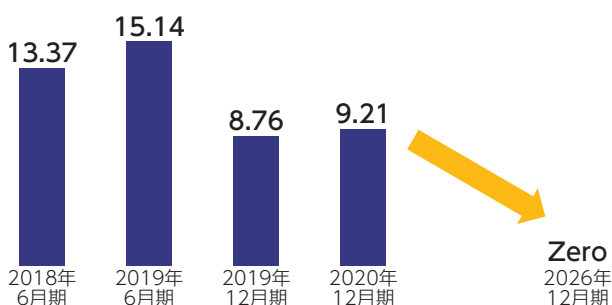
ESG Topics

カーボンニュートラルの実現へ

当社は「気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)」への参画とともに、パリ協定の「2℃目標」達成に向けて環境に対する取り組みを行ってまいりました。

これまで、2030年に従業員一人当たりCO₂排出量を2018年比で50%削減する目標を掲げておりましたが、2021年3月に新たな中期目標として、社会全体の持続的な成長に向けて事業活動の効率化を促進することで、2026年までに自社事業活動の「カーボンニュートラル」の実現を掲げました。脱炭素社会の実現に向けて、取り組みを加速してまいります。

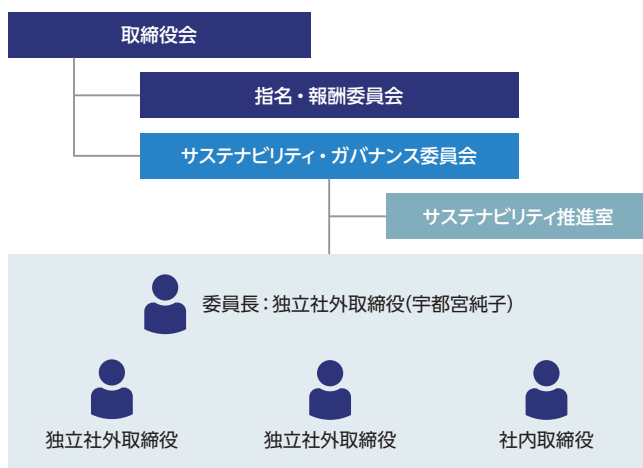
従業員一人当たりCO₂排出量 (t-CO₂)



「サステナビリティ・ガバナンス委員会」の設置

当社のESG(環境・社会・ガバナンス)への取り組みを経営の中核に据え、さらに継続するために「サステナビリティ・ガバナンス委員会」を設置いたしました。

独立社外取締役を委員長とした取締役会の諮問機関として、中長期視点でサステナビリティに関する課題を審議・モニタリングしていきます。



(2021年6月30日現在)

会社の概要

設立	2006年7月
資本金	3,956,738,000円
事業内容	創薬研究開発業
本社	〒210-0821 神奈川県川崎市川崎区殿町3-25-23 TEL (IR 広報) 044-223-6612
主要取引先	旭化成ファーマ(株)、小野薬品工業(株)、参天製薬(株)、 塩野義製薬(株)、大鵬薬品工業(株)、 独 Bayer AG、米 Bristol-Myers Squibb、米 Janssen、 スイス Novartis、米 RayzeBio

役員 の 状 況

代表取締役社長 **リード・パトリック**
NRSA 研究員、国立大学法人東京大学先端科学技術研究センター特任助教授、同大学国際・産学共同研究センター客員助教授及び特任助教授、当社常務取締役研究開発部担当を経て、現任

取締役副社長 **舛屋 圭一**
三菱化学(株) (現田辺三菱製薬(株))、Novartis International AG, Head of PPI Drug Discovery and Novartis Leading Scientist を経て、現任

取締役副社長 **金城 聖文**
(株)ボストン・コンサルティング・グループ(BCG) パートナー&マネージングディレクターを経て、現任

社外取締役(監査等委員) **笹岡 三千雄**
大塚化学(株)探索研究所所長、同社常務執行役員を経て、現任

社外取締役(監査等委員) **長江 敏男**
塩野義製薬(株)、アベンティスファーマ(株) (現サノフィ(株)) 執行役員、ヨーク・ファーマ(株)代表取締役社長を経て、現任

社外取締役(監査等委員) **花房 幸範**
青山監査法人を経て、アカウンティングワークス(株)設立代表取締役、アーランドサービス(株)取締役(監査等委員)を経て、現任

社外取締役(監査等委員) **宇都宮 純子**
長島・大野・常松法律事務所、宇都宮・清水・陽来法律事務所パートナーを経て、現任

株式の状況

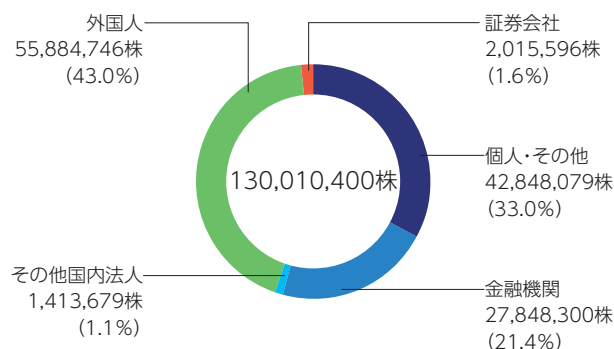
発行可能株式総数	342,400,000株
発行済株式総数	130,010,400株
株主数	16,739名

大株主の状況 (上位10名)

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
窪田 規一	13,612	10.47
菅 裕明	12,442	9.57
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	8,916	6.86
リード・パトリック	6,490	4.99
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	6,388	4.91
ノーザントラストカンパニー(エイブイエフシー) アカウントノントリーティー	6,156	4.74
SSBTC CLIENT OMNIBUS ACCOUNT	3,687	2.84
特定有価証券信託受託者株式会社 SMBC信託銀行	2,400	1.85
ステート ストリート バンク ウェスト クライアントトリティー 505234	2,285	1.76
ザ バンク オブ ニューヨーク ノントリーティー ジャスデック アカウント	2,201	1.69

(注) 持株比率は自己株式(164株)を控除して計算しております。なお、自己株式のうち、株式給付信託の信託財産として、株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が保有する当社株式184,200株は含まれておりません。

所有者別株式分布



株主メモ

事業年度	1月1日から12月31日まで
定時株主総会	毎事業年度末日の翌日から3ヶ月以内
株主確定基準日	定時株主総会 12月31日 期末配当を行う場合 12月31日 中間配当を行う場合 6月30日
1単元の株式数	100株
株主名簿管理人	三井住友信託銀行株式会社 東京都千代田区丸の内 1丁目4番1号 取次所：三井住友信託銀行株式会社 全国各支店
公告掲載方法	当社の公告方法は、電子公告としております。ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告をすることができないときは、日本経済新聞に掲載して行います。当社の公告掲載 URL は次のとおりであります。 https://www.peptidream.com/

ホームページのご案内



<https://www.peptidream.com/>

ペプチドリーム

検索



ペプチドリーム株式会社

〒210-0821 神奈川県川崎市川崎区殿町 3-25-23
TEL (IR 広報) 044-223-6612

<https://www.peptidream.com/>

UD FONT

見やすく読みまちがえにくいユニバーサル
デザインフォントを採用しています。